

令和8年2月20日

対馬市議会議長 春 田 新 一 様

産業建設委員会

委員長 糸 瀬 雅 之

産業建設委員会所管事務調査報告書

令和7年第2回対馬市議会定例会において、会議規則第111条の規定により、閉会中の所管事務調査の承認を得ておりました本委員会の調査の内容とその概要を、同規則第110条の規定により報告いたします。

本委員会は、令和8年2月13日に、対馬観光物産協会への補助金の概要について、対馬観光物産協会の公益事業の現状について及びふれあい処つしまの物産関係の現状について所管事務調査を行いました。

まず、観光推進部及び対馬観光物産協会担当職員立ち会いのもと、ふれあい処つしまの施設内の現地視察を行い、その後対馬市交流センター3階第1会議室において、各項目の説明を受けました。

対馬観光物産協会への補助金の名称は、対馬市観光客おもてなし事業補助金で、趣旨は観光の振興により、交流人口の拡大を図るため、対馬観光物産協会が実施する観光客誘致に関する事業に対し、予算の範囲内において補助金を交付することです。

主な補助対象事業は、対馬の観光・物産に関する情報発信事業、観光・物産資源の調査、開発に関する事業、観光客受入態勢整備に関する事業など8項目が補助対象事業です。

補助対象経費は、給与などの人件費であり、過去3年間の補助金交付

額は、令和5年度、6,050万8千円、令和6年度、6,410万9千円、令和7年度、7,094万7千円であります。補助対象人数は、正規職員10人、嘱託職員4人、契約職員2人、賃金職員6人です。

次に、対馬観光物産協会の公益事業の令和7年度事業としては、「観光案内所設置事業 1,484万2,480円」、「対馬市旅行ツアー送客支援事業 2,081万5,610円」、「アンテナショップを拠点とした対馬産品販路拡大事業 1,980万円」など10項目が主な事業内容であり、令和7年度受託額は、現在までで7,763万980円です。

令和6年度の公益事業の主な成果は、ガイド育成事業では、新規ガイドの創出、新規コンテンツの創出、セルフガイドの整備、観光案内所設置事業では、アンケート調査を行い、日本人観光客は「歴史・自然」を、韓国人観光客は「日本の食・体験」を重視するといった、対象別の興味関心の違いが明確になったということです。

対馬市旅行ツアー送客支援事業では、営業活動を拡大し、訪問先が160社へと大幅に増加し、積極的な営業活動を行った結果、目標とする都市圏からの送客において一定の成果があったということです。

アンテナショップを拠点とした対馬産品販路拡大事業は、福岡市のアンテナショップ「よりあい処つしま」を拠点に、対馬産品の認知度向上、販路拡大、観光情報の提供を行い、「あなごフェア」や「マグロフェア」などの飲食イベントを通じ、対馬の食の魅力を直接消費者に届けた。また、福岡以外の東京や大阪での飲食イベントを通じ、対馬産品の販路開拓を推進した。また、ラジオでのスポット告知やインフルエンサーを活用したSNS発信により、戦略的にメディアを活用して、店舗及び対馬観光の認知度を大幅に高めたということです。

ふれあい処つしまの物産の取引業者は81社あり、商品数は623品です。令和7年度の売上品の上位は、小まきかすまきが人気商品であり、一口サイズと持ち運びやすいなど、観光客のニーズに答えています。つしにゃんキッチンでは、対馬らしさを詰め込んだランチを提供

しております。

委員からは、福岡市のアンテナショップ「よりあい処つしま」の閉店に伴い、今後の販路先や、イベント等への参加を危惧する意見があり、対馬地域商社とも連携をはかり、対馬のPRに努めて頂きたい。

ガイド育成事業においては、観光客の多種多様な、コンテンツに対応するための、ガイド人材不足が懸念されており、市職員の観光ガイドとしての副業制度を検討してはどうか。

韓国人観光客の増加に伴い、島外からの日本人観光客の減少や、宿泊施設の不足、観光バスの予約状況の現状把握をし、旅行会社との連携を行って欲しい。

インバウンドによる対馬島民の生活環境も考慮した、調査・研究をしっかりと行い、観光事業における、ソフト面及びハード面の観光地整備が重要である。一部の地域のみが経済が潤うのではなく、対馬市全体で、経済効果のある島づくりを目指す努力をして頂きたい。などの意見がありました。

以上で、産業建設委員会の閉会中の所管事務調査報告を終わります。